

白内障手術が劇的変化 多焦点眼内レンズで 老眼が軽くなる

加齢により発症する白内障は薬では治せないため、治療には手術が必要になる。

最新の手術法と若返りの多焦点眼内レンズについて
高山眼科の高山院長に話を伺った。

白内障の治療に使われる 眼内レンズの見え方の違い



単焦点眼内レンズ

遠くにピントが合い手前はぼやけて見えるため、矯正用のメガネが必要に

多焦点眼内レンズ

遠くから近方40cmくらいまでピントが合うため、日常生活が快適に過ごせる

体験者の声

- 子どもの頃から視力が悪く、眼鏡をかけない生活が夢のようです。目の周りのうっとうしい感覚から解放されました。K・Yさん(50代・女性)
- 術後、伝票や書類の読み書きがとて楽になりました。視界が明るくなり、夜道を歩くのも安心です。K・Oさん(70代・男性)

加齢とともに視界が濁り見えづらくなる白内障

「視界が全体的にかすむ」「視力が低下する」「光をまぶしく感じる」「暗いときと明るいときで見え方が違う」……加齢により、目にこんな症状が出てきたら、白内障の疑いがあるかもしれない。

「白内障は発症してしまうと薬では治せず、そのまましているとやがて失明してしまいます。手術を怖がる方もいますが、1年間に140万件も行われ、日帰り手術も普及しているポピュラーなもので安心してください」と高山先生。

多焦点眼内レンズの手術をレーザーで正確に行う

白内障の手術は、濁ってしまった水晶体にかわって人工の水晶体(眼内レンズ)を移植するというもの。この眼内レンズには、「単焦点」と「多焦点」がある。

これまでは遠方か手元か、どちらか1点にピントを合わせた単焦点の移植が主流だった。しかし現在は、遠近両用の多焦点を希望する人が急増している。遠方から手元 40センチくらいまで鮮明に見える、多焦点眼内レンズが開発されたので目が若返るのだ。

その手術方法として脚光を浴びているのが、フェムトセカンドレーザ

ーだ。これは、レーシックや角膜移植などに利用されている、コンピューターを使った最新技術。高山眼科では昨年からは、フェムトセカンドレーザを使った眼内レンズ移植手術法を導入し白内障の治療にあたっている。

「眼には個人差があるので、より正確で精度の高いフェムトセカンドレーザが最適です」と、高山先生は語る。体への負担も少なく、安全性も高いため先進医療として扱われているそう。

生命保険の医療特約で自己負担不要の場合も

先進医療に認定されている手術は保険適用外診療となり費用が高額になる。それでも手術を受けるメリットについて高山先生に伺うと「一つは老眼の矯正です。老眼の原因は加齢で眼のピントを合わせる力が衰えるものですが、多焦点眼内レンズを移植するとメガネなしでも遠方から近方40センチくらいまでピントが合うようになるので、結果的に老眼が軽減されるのです」

老眼を矯正することは難しいため、この副次効果はありがたい。

「もう一つは手術費用の軽減です。生命保険などの『先進医療特約』に入っている方は対象となり生命保険会社などから手術費用が出るので、手術の自己負担金が不要になります」

取材協力

医療法人秀緑会 高山眼科

☎0120-133712

緑町医院

TEL.027-361-6888 高崎市緑町1-5-3

駅前医院

TEL.027-327-3366 高崎市八島町70ラ・メルセ3F

日曜日もやってます 午前10:00~12:00 午後13:00~16:00

先進医療(緑町医院のみ)

フェムトセカンドレーザを使用した
多焦点眼内レンズ手術

片眼700,000円

先進医療特約加入の方は手術料負担不要

WEBサイトをリニューアルしました!

高山眼科 検索

